

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

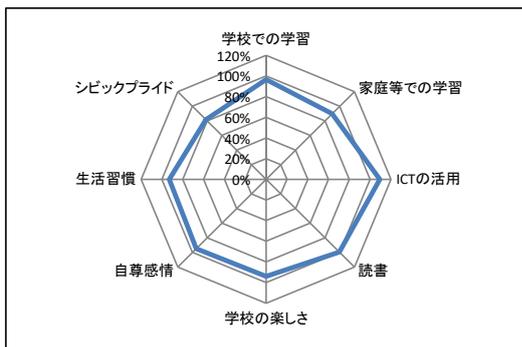
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	評価観点で見ると、「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の問題のほうが正答率が低い。「思考・判断・表現」の領域の中では、「書くこと」「読むこと」は全国平均と同程度であるが、「話すこと・聞くこと」については全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	評価観点で見ると、「思考・判断・表現」は全国平均をわずかに下回る正答率であるが、「知識・技能」は全国平均を下回っている。問題文全体を正確に読み取らず、文中の単語だけを見て判断した誤答が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	評価観点で見ると、「思考・判断・表現」より「知識・技能」の問題のほうが正答率が低い。領域別にみると、A区分のエネルギーや粒子を柱とする領域よりも、B区分の生命や地球を柱とする領域を苦手としていることが分かる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	【実験結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利活用や読書時間の確保については、全国平均以上または全国平均と同程度にできています。今後も効果的なICT活用、読書活動に積極的に取り組んでいきたい。 ・学習したことの復習や家庭学習に取り組む児童が多くないことが分かった。基礎基本の定着のためには、家庭学習を含む復習にしっかりと取り組んでいくよう啓発を続けると同時に、中井っ子タイムの充実など校内での取組も見直していきたい。 ・「地域社会をよくするために何かしてみたいか」の肯定的回答の割合が、全国平均を大きく下回っていた。学校の教育活動全体でシビックプライドを醸成していく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・基礎基本の知識を身につけるため、積極的にGIGA端末を活用しながら、授業・中井っ子タイム（毎日15分のドリルタイム）・家庭学習の取組を充実させる。
- ・問題を読み解く読解力を高めるために、読書活動（読み聞かせ含む）や各教科において語彙力、思考力等を高める取組の工夫を進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・規則正しい生活リズムや適切なスマホ利用、温かい言葉かけなどについて、児童への指導および保護者への啓発を継続的に行う。学習についても、学年・学級通信を通じて、現在学習している内容、学習に関連して家庭で取り組めることを具体的に知らせる取組を継続する。